

平成 29 年度
松原市青少年海外友好交流事業
報告書



平成 30 年 3 月 21 日～3 月 27 日



松原市

はじめに

本市は、2014年9月11日に台北市文山区と海外で初となる友好交流協定を締結し、現在まで3回、本市の中学生が現地でのホームステイ及び教育・スポーツ交流を行っています。今後は英語圏の地域において上記のような交流を行えるよう、2017年2月にメルボルン、ムーニーバレー市を視察したところです。

今回、本市の青少年が現地に渡航し、地理的環境や生活文化の違いなどを目の当たりにすることにより、国際的な視野を広げ、積極性、協調性、チャレンジ精神を育むことを目的として本事業を実施しました。実施にあたっては、現地の高校・ムーニーバレー市議会、在メルボルン日本国総領事館のご協力を得たものです。

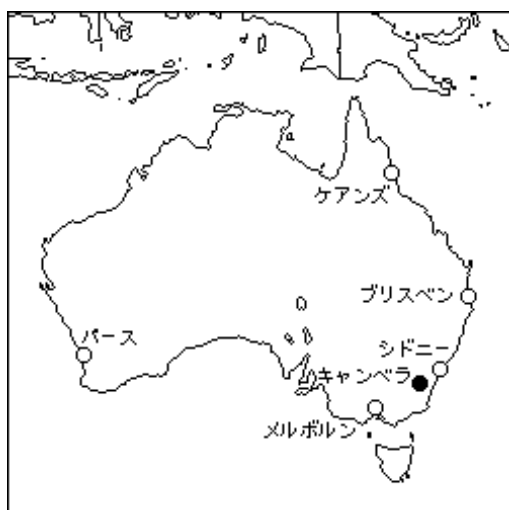
参加者として抽選で選ばれた高校1年生から3年生までの10名が、各自の主体的な参加意欲をもって事前学習を4回行いました。事前学習では、10名の多様性を大切にしながら、本市及びムーニーバレー市についての学習や現地でのプレゼン資料の作成、英会話演習などをし、チーム力を高めました。

そして3月21日～27日の7日間、現地において高校生との交流やホームビジット、ムーニーバレー市長及び市議表敬、在メルボルン総領事表敬を行いました。

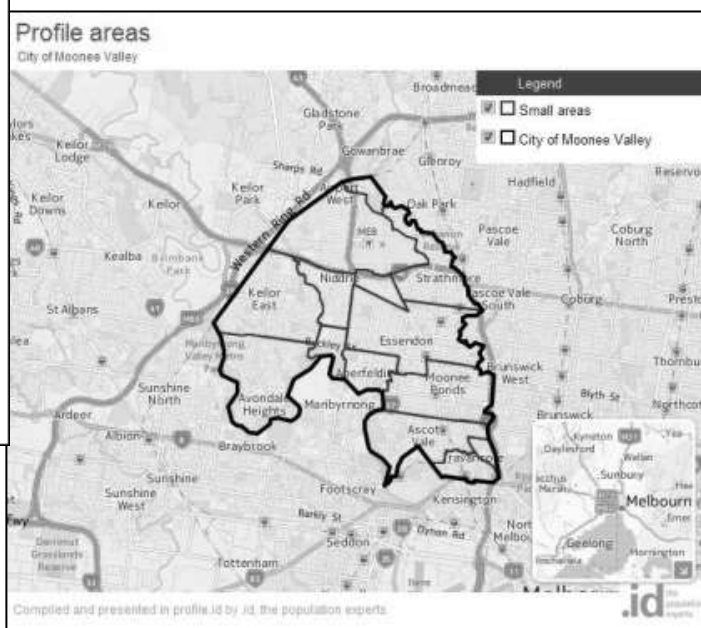
【Moonee Valley（ムーニーバレー市）の概要】

オーストラリア連邦ヴィクトリア州ムーニーバレー市

面積は43k m²、人口は119,583人（2015年6月末）47,000世帯で、メルボルンの北西に位置しています。時差は+1時間（サマータイムは+2時間）で、大阪と真逆の四季があります。スポーツはクリケット、サッカー、オーストラリアン・フットボールが活発です。市内には大学が2校、専門学校かつ高校が1校あります。SCの取組みは2011年から開始し、2014年10月に国際認証を受けています。



オーストラリア



ムーニーバレー

1. 行程概要及び参加者

(1) 期間：平成30年3月21日（水）～3月27日（火）

(2) 行程：

日付	行程
3月21日	08:30 関西国際空港集合 10:45 関西国際空港出発（CX565便） （台北・桃園国際空港経由） 16:20 香港国際空港到着 19:05 香港国際空港出発（CX135便）
3月22日 時差 +2時間	07:30 タラマリン空港（メルボルン）到着 09:30 タラマリン空港出発 10:00 ホテルに到着 10:30 英会話実習・生活体験（地元のスーパーで自力で買い物をしてみよう） 12:00 昼食 13:30 ホテルチェックイン 14:45 ホテル発 徒歩で在メルボルン日本国総領事館へ 15:00 在メルボルン日本国総領事館 総領事表敬 16:30 ホテル着 休憩 18:00 夕食 20:00 ホテルへ
3月23日	08:00 ホテル出発 09:00 電車・バスでエッセンドン・キーロー・カレッジへ ムーニーバレー市・サイペック市長表敬 両市プレゼン 学生交流 授業体験 15:00 お別れ会 16:15 エッセンドン・キーロー・カレッジ出発 17:00 ホテル着 18:00 夕食 20:00 ホテルへ

3月24日	10:00 ホテル出発 10:30 ترامでクイーンヴィクトリアマーケットへ 12:30 昼食 13:30 徒歩でホテルへ 14:00 ホテル発 専用車でホームビジットへ 14:30 ホームビジット 1 軒目訪問 15:15 専用車で移動 15:45 ホームビジット 2 軒目訪問 16:30 専用車で移動 ヴィクトリア州立図書館へ 17:00 ヴィクトリア州立図書館着 18:00 徒歩でチャイナタウンへ 18:30 夕食 20:30 ترامでホテルへ
3月25日	09:30 ホテル出発 10:30 ترامでメルボルン動物園へ 12:30 昼食 13:00 ترام・バスでムーニーバレー市センターウェイへ 14:30 地中海フィエスタ（市主催・多文化共生イベント）参加 16:00 バス・電車でホテルへ 17:30 ホテル着 休憩 18:00 ホテル発 ترامでハーバータウンへ 19:00 夕食 20:45 メルボルン・スター大観覧車体験 21:15 ترامでホテルへ
3月26日	11:00 ホテルチェックアウト 11:30 ムーニーバレー市議会・ローレンス市議表敬 12:00 ローレンス市議夫妻とランチミーティング 14:00 ترامで移民博物館へ 14:30 移民博物館見学 16:00 ترامでフリンダース・ストリート駅へ 16:15 徒歩でフェデレーションスクエアへ 17:00 徒歩でメルボルン市街地視察（フェデレーションスクエア～ロイヤルアーケード～ヴィクトリア州立図書館前） 19:30 夕食 21:00 徒歩でホテルへ 21:30 ホテル発 専用車でタラマリン空港へ 22:00 タラマリン空港到着

3月27日	00:40	タラマリン空港出発 (CX178 便)
時差	07:05	香港国際空港到着
-2時間	08:10	香港国際空港出発 (CX564 便) (台北・桃園国際空港経由)
	14:50	関西国際空港到着
	16:00	関西国際空港解散

(3) 参加者 :

	所 属 ・ 役 職
1	学生
2	学生
3	学生
4	学生
5	学生
6	学生
7	学生
8	学生
9	学生
10	学生
11	市民協働部 次長
12	副理事兼市民協働部 市民協働課 課長
13	市民協働部 市民協働課 主幹兼 NPO・国際交流係長
14	市民協働部 市民協働課 NPO・国際交流係

2. 在メルボルン日本国総領事館表敬

◆日時及び会場

- ・日 時：平成30年3月22日（木）15：00～16：00
- ・会 場：在メルボルン日本国総領事館内
- ・出席者：松永 一義総領事、都原 将太副領事

【松永総領事のスライドショーによるプレゼンテーション及び懇談】

*メルボルンと大阪、オーストラリアと日本について

- ・オーストラリアは日本と様々なことが正反対。日本の外国人住民の割合は約 1.9%だが、メルボルンは約 25%を超える。いまやメルボルンこそ世界で最も多国籍な街と言っても過言ではない。
- ・オーストラリアは日本にとってこれからの社会のあり方を考えるいい見本である。この交流事業を通じて、学生の皆さんはメルボルンの多文化共生の現場を体験し、将来に活かしてほしい。
- ・メルボルン市と大阪府は今年で姉妹都市 40 周年。大阪の企業が手掛けた大観覧車もあるので、メルボルンと大阪のつながりを感じてもらえたら。



*総領事プレゼンテーション『海外で働くことの魅力』

- ・「高校生たちの進路選択の参考に」と、松永総領事からのプレゼンテーション。
- ・高校時代に初めて短期留学した経験から海外に興味を持った。経済事情などのハードルはあったが、「海外で働く」という夢に向かって一生懸命頑張った。皆も「夢が叶わないことを悲観せず、しかし毎日一生懸命に」頑張してほしい。
- ・「外交官の仕事」について

資源国を日本に引きつけることは、国の安全保障に関わる重要な任務。この観点から、その国で知日派・親日派を増やすことを目的に、日本への関心のきっかけとしてパーティーやイベント等の「楽しいこと」を行っている。

この他にも、邦人保護・日系企業の海外展開支援・対日理解促進といった内容で仕事をしている。オーストラリアでは和牛や抹茶、小林製薬のメガネクリーナーのようなニッチな商品など、日本の商品が定着しつつある。

今回の交流事業は海外から日本を見つめなおす絶好のチャンスなので、オーストラリアと日本との違いを大いに発見してほしい。

例えば…教育の傾向と子どもの育ち方の違い	
オーストラリア	日本
ほめて伸ばす	模範解答にこだわる
長所をさらに伸ばす	短所を補う まんべんなくそれなりにできれば…
打たれ弱い	打たれ強い

・進路選択について

例えば、外国語ができる人がたくさんいる外務省で言語のスペシャリストを目指しても埋没する。その点、理系、それも IT に詳しい人材は自分以外ほとんどおらず、活躍の場をもらえた。もし進路に迷ったら「オンリーワンを目指す」ことを指標にしてもいいと思う。

色々な人と出会い、自分が何をしたいのかを明確にしたうえでそれを伝えることで、協力してくれる人がきっと現れ、困難を乗り越えることができる。壁にぶつかったときのヒントになれば。



3. エッセンドン・キーロー・カレッジ 学校交流

◆日時及び会場

- ・日 時：平成30年3月23日（金） 9：00～16：00
- ・会 場：エッセンドン・キーロー・カレッジ（ムーニーバレー市）
- ・出席者：（ムーニーバレー市） ジョン サイペック市長
（カレッジ） デービッド アダムソン統括校長
リサ ニュージェント校長、マークス副校長
小林教諭、ヘレン教諭



◆カレッジについて

- ・ムーニーバレー市のほぼ中央に位置する、創立105年の歴史ある州立校。
- ・カレッジはエッセンドン、イースト・キーロー、ニドリーの3つのキャンパスで構成される。今回訪問したのはエッセンドンキャンパス。
- ・エッセンドンキャンパスは、Year10-12（日本の高校に相当）の学生が約400人在籍。（他の2つのキャンパスはYear7-9、中学校に相当する学齢向け）。
- ・このキャンパスの学生の卒業後の進路は、大学、もしくは高等職業訓練課程への進学が一般的。理系の学生には職業訓練課程が人気だが、全体的な傾向として、大学進学が優勢になりつつある。
- ・デービッド統括校長は3校全体の、リサ校長はエッセンドンキャンパスの校長という位置づけ。
- ・ヴィクトリア州立校の中でも珍しい、日本語が学べる学校で、小林氏を含め日本語教諭が4人在籍。
- ・日本のプロ野球のように、オーストラリアでもオーストラリアン・フットボールの各チームに熱狂的なファンがいる。本拠地をメルボルンに置くチームが多く、同じメルボルン近郊住民でも最頂のチームが違うことがある。このような背景から、体育館の壁にボール投げ練習用の的がペイントされていたり、グラウンドもオーストラリアン・フットボールが遊べるよう、楕円形（Oval）の形状になっていたりする。
- ・500～600人収容の講堂を備えており、改装後は地域のイベント等にも開放する予定。

【プログラム】

9:00	カレッジ到着 図書室へ
9:15	歓迎セレモニー リサ ニュージェント校長より挨拶 ジョン サイペック市長より挨拶 ムーニーバレー市長への親書伝達 松原市引率挨拶 記念品交換 学生代表挨拶（カレッジ） 学生代表挨拶（松原市）
10:00	学生自己紹介 アクティビティ①
10:30	キャンパスツアー
10:45	モーニングティー休憩
11:05	松原市紹介プレゼン発表 アクティビティ②③
12:35	昼食・休憩
13:30	授業体験
14:40	お別れ会 記念撮影
15:00	出発

【ムーニーバレー市 ジョン・サイペック市長表敬】

*サイペック市長あいさつ

- ・ 松原市から学生と引率がムーニーバレー市に来られる旨、カレッジからも情報があったので、カレッジで松原市の皆さんとお会いすることにした。このような形で海外からのゲストをお迎えできるのは市として、市長として非常に光栄でうれしい。
- ・ ムーニーバレー市はエッセンドン・キーロー・カレッジと協働の取組みをしているが、カレッジはプレミアムスクール認定を受けていて、父母からの評価も高い学校。ぜひ学校交流を楽しんでほしい。
- ・ 松原市マスコットのマッキーのモチーフが「松」と「バラ」だと聞いた。自分の選挙区が“**Rosehill ward**”なので、「バラ(rose)」と聞くと親しみを感じる。
- ・ 松原市長からの親書、確かにお預かりした。こちらからの親書をご用意せず申し訳ない。改めてお返事をお送りする。



＊リサ・ニュージェント校長より

- ・ 日本からの学生をお迎えでき、とてもうれしく思う。
- ・ 本校は今年で創立105年を迎える歴史ある学校であり、海外からの留学生を多数受け入れている。
- ・ 短い滞在ではあるが、様々なルーツを持つ仲間たちと交流し、ここでの体験を一生ものの素敵な思い出にしてもらいたい。



【学校交流】

＊日本語を教科として選択しているカレッジの学生と松原市の学生とで1対1のバディを組んで学校交流を進めることに。日本語・英語の両方を双方が学びあうプログラム。

＊カレッジのバディ（12人）

アブベイカー	ライアン	レクサンドラ	ゼブ
ラルフ	エミリー	レナ	エレン
セレン	ジェイク	アリッサ	エイデン

*アクティビティ① (小林教諭・ヘレン教諭)

(日本語禁止・英語でコミュニケーション)

- ・名前を聞いてアルファベット順に並ぼう。皆の名前は覚えた？
- ・クエスチョンカードを埋めよう。「ペットはいる?」「家族は何人?」などの質問項目を他の学生に聞いて回り、全ての項目が埋まった先着3人にご褒美。
- ・バディの組み合わせ発表。ここからはバディごとに学習・交流。



*キャンパスツアー

- ・バディと校内見学。カレッジの学生は日本語、松原の学生は英語を使うことで、互いに言語を学びながらコミュニケーションを取る。
- ・校内は教科ごとに教室が分かれていて、基本的に学生個人の机の割当てはない。各自ロッカーに荷物や教科書を保管し、授業ごとに教室を移動する。



*モーニングティー (教職員との懇談)

- ・オーストラリアはイギリスの文化が色濃く残っており、昼食も13時前後。このため、11時前後にモーニングティーの休憩を取る習慣がある。日本の職場では昼食時以外には特段まとまった休憩時間がないことから、日本とオーストラリアの文化の違いの話に。

- ・オーストラリアでは外国にルーツのある子どもの母語学習支援も重視している。ムーニーバレー市にはギリシャ系・イタリア系住民が集住しているので、放課後に学校施設を開放してギリシャ語教室などを開設している。学校のカリキュラムで学べないクロアチア語・ウクライナ語などのマイナーな言語も、この放課後教室で課外授業として学べる。日本の外国人生徒への教育支援は日本語指導が多少つく程度が一般的なので、多文化共生施策の違いが見て取れる。
- ・オーストラリアの多文化共生といえばアボリジニがよく例に挙げられるが、アボリジニをルーツに持つ人は少ない。例えば、このカレッジ（エッセンドンキャンパス）の場合、約 400 人の学生に対して片親がアボリジニの学生は 5～6 人、両親がアボリジニの人は 1 人だけ。
- ・デービッド統括校長・リサ校長ともに日本渡航（主に教育旅行）経験が豊富で、日本との学校交流に積極的。今後も松原市が教育交流をするのであれば、ヴィクトリア州教育省がホームステイを含め様々な訪問プランを提示しているので、それを活用すれば交流の準備がしやすくなるだろう。申請手続きに困ったら助言する、とのこと。

*松原市紹介プレゼン発表

事前学習会で参加者が作成した、松原市を紹介するプレゼンテーションを英語で発表。



松原市が「大阪のへそ」として交通の利便性に優れていることや、伝統工芸や地場産業を誇るコンパクトシティであること、六社参りのような歴史ある文化財を活用したイベントがたくさんある街であることなど、学生たちが自分で調べた内容を自分の言葉で発表した。

*アクティビティ②（小林教諭・ヘレン教諭）

（日本語禁止／英語でコミュニケーション） ペアワーク

- ・松原の学生は、図書室内に隠された 6 枚の写真を見つけ、その内容を目で見て覚えてバディに英語で伝えよう。伝えられたバディは言葉で聞いた内容をもとに絵を描こう。



*アクティビティ③ (小林教諭・ヘレン教諭)
 (松原の学生は英語、カレッジの学生は日本語でコミュニケーション)
 ペアワーク

・5つのトピックについて、自分の国でポピュラーなものを語る

トピック	日本	オーストラリア
スポーツ	野球 相撲 サッカー バレーボール	クリケット サッカー オーストラリアン・フットボール
食べ物	ご飯もの 寿司 カレーライス	フィッシュアンドチップス ベジマイト
住まい	アパート・マンションが多い	バックヤード（庭付き一軒家） 都心は日本と同じで集合住宅が多い
学校	厳しい 制服がある	アクセサリー・メイク OK 自由
交通	タクシー 電車 新幹線 定刻通りが当たり前	トラム バス 5分程度なら遅れの内には入らない



*授業体験

- ・昼食後、ペアを組んだ学生と一緒に実際の教室に入り、他の学生と一緒に授業を受ける。【例：英文学、心理学、化学、ビジネスマネジメント（消費者保護演習）、音楽】
- ・学生の卒業後の進路によって必修科目が異なる。
- ・宿題や学習進捗管理はグーグルドライブでオンライン管理でき、外出先でも宿題が提出できる。
- ・カリキュラム外の授業は正規の授業料とは別に費用を納める必要がある（部活動はない）が、基本的には授業時間中でも放課後でも、自由な時間設定ができる。



＊お別れ会、カレッジから学生達へプレゼント

- ・リサ ニュージェント校長より

あっという間の交流だったが、松原市の皆さんにとって楽しい一日であったことを願う。短い滞在だが、今回の渡豪をいい思い出にしてほしい。



4. ホームビジット体験及びヴィクトリア州立図書館見学

◆日時及び会場

- ・日 時：平成30年3月24日（土） 14：00～17：00
- ・会 場：ムーニーバレー・メルボルン近郊住宅2軒
- ・出席者：スウィート家、マスリック家

日本人学生のホームステイ受入れ経験豊富な家庭2軒を訪問。家庭の皆さんに学生を受入れた時の体験等を聞き取り、情報交換を行った。オーストラリア流スコーンやアンザッククッキーなど、現地のお菓子でおもてなしを受けた。

学生達からは「家族写真がたくさん飾られているところに家族愛の表現の日本との違いを感じた」「ホームステイの予習になった」といった感想が挙がった。



◆日時及び会場

- ・日 時：平成30年3月24日（土） 17：00～18：00
- ・会 場：ヴィクトリア州立図書館

ヴィクトリア州立図書館 (State Library of Victoria) は1854年に開館。蔵書数200万冊の大規模図書館で、放射線状に席が配置された閲覧室のほか、古代ギリシャ調の外観、白を基調とした内装の美しさから、観光スポットとしても有名。1階閲覧室を囲む配置の回廊状展示スペースが各階にあり、メルボルンやヴィクトリア州の歴史・自然などを学べる展示を見学できる。



5. メルボルン動物園、地中海フィエスタ、ハーバータウン見学

◆日時及び会場

- ・日 時：平成30年3月25日（日） 9：30～21：30
- ・会 場：メルボルン動物園、ムーニーバレー市センターウェイ、ハーバータウン

この日の行程は、事前に学生が自分達で計画を立てて行き先を決定した。

*メルボルン動物園

…オーストラリア固有種の展示を見学。



*地中海フィエスタ (Mediterranean Fiesta)

…「地域の生活文化や、ムーニーバレー市の人と直接ふれあう」ことを目的に見学。

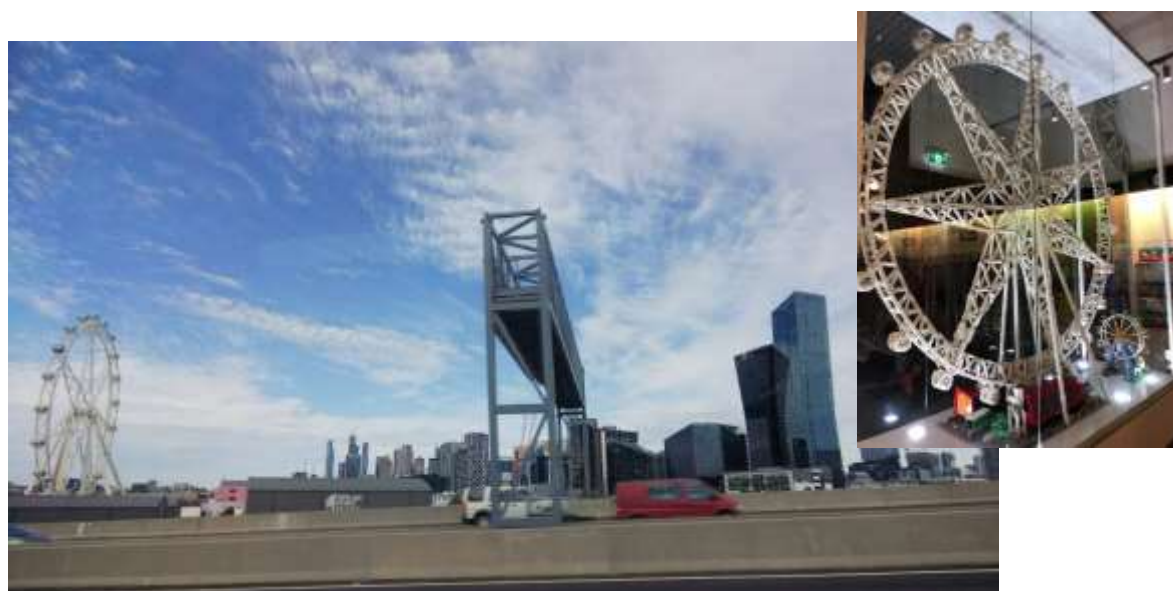
フィエスタはムーニーバレー市主催の、多文化共生週間の一環のイベント。

ムーニーバレー市にはイタリア・ギリシャをはじめ、地中海沿岸地域にルーツを持つ住民が多く、ギリシャの祭日にあたるこの日に合わせて開催。地中海地域のダンスショーや生演奏、クッキング実演、子ども向けフェイスペインティング、市・図書館・警察のブース出展など。図書館は日曜日休館だが、創立 50 周年の啓発も兼ねてブース出展。



*ハーバータウン

…メルボルン市街地北西部、海岸に面した商業施設。南半球唯一の大観覧車、メルボルン・スター (Melbourne Star Observation Wheel) がある。大阪市本社のサノヤスグループ施工。



6. ムーニーバレー市 リチャード・ローレンス市議夫妻との懇談

◆日時及び会場

- ・日 時：平成30年3月26日（月）
12:00～14:00
- ・会 場：メルボルン市内



絵本 “The Story of Tashamodo and the Magic Plum Tree”（タシャモドと魔法のプラムの木のおはなし）の著者であるローレンス市議（作家名 リッチー ローレンス）夫妻と意見交換。学生達の絵本の感想を伝え、絵本のことについて懇談を行った。



* ローレンス市議より

- ・絵本の挿絵に描かれている風景はすべて実在のもの。ローレンス市議のセカンドハウス周辺の風景をそのまま、絵本の世界に落とし込んだ。
- ・主人公タシャモドのモデルは、ペットのポインター犬。タシャモドのように海辺で泳ぐ人の見張りをしている。
- ・日本には行ったことがないが、旅好きなのでいつかは行ってみたい。松原市は寺社や、バラフェスティバルのようなイベントもあり、食べ物もおいしい、オーストラリアより物価が安いこと、大阪市内にもアクセスがいいと聞いて、とても興味がある。いつか訪日した際には松原にも行ってみたい。
- ・オーストラリアの市議の仕事は、日本と違って名誉職の意味合いが強い。普段はロータリークラブ・航空機産業・太陽光関係・絵本作家の兼業で過ごしている。発展途上国への慈善活動もしている。
- ・ムーニーバレー市の歳入は固定資産税と罰金ぐらい。州政府の権限が強く市町村の仕事が少ないこともあるが、それ以上に歳入がない。日本のように財源があり、市町村でできる仕事が多く、このような交流事業が市費を投じて行えるというのは、松原の子どもたちにとってはとても幸せな環境だと思う。ぜひ松原に今回の体験を持ち帰り、多くの人と共有してほしい。

7. 報告準備会及び報告パネル展

◆日時及び会場

- ・日時 報告準備会① 平成30年4月15日(日) 15:00~17:00
報告準備会② 平成30年4月29日(日) 15:00~17:00
報告準備会③ 平成30年6月16日(土) 15:00~17:00
報告パネル展 平成30年6月25日(月)~6月29日(金)
- ・会場 報告準備会 市役所8階会議室
報告パネル展 市役所1階市民ロビー

- ・学生達が交流事業を通じて体験したこと・学んだことを事業の成果として広く市民に報告するため、パネル展と準備会を実施。
- ・報告準備会では、学生達は掲示物を自分達で作成しながら、オーストラリアでの体験を振り返り、この事業で出会った仲間として友情を深め合った。



- ・報告パネル展では、参加者が撮影・編集した動画も展示。期間中は来庁者が市民ロビーで足を止め、動画を視聴する姿が見られた。



8. 本事業を振り返って

今回の交流事業は、英語圏で初めての青少年交流であること、参加者が異なる高校から集まったことから、事前事後の学習会に重点を置き、チームづくり・今後の交流事業にもつながる人材づくりに取り組みました。

最初は緊張してなかなか話せない学生もいましたが、学習会を重ねるにつれて参加者同士の仲間意識が芽生え、失敗を恐れず積極的に学習に取り組むようになりました。

行程の一部を自分達で考えたり、現地の人に道を尋ねたりするなど、学生たち自身が主体的に考え行動することで、単なる英会話能力だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神を養うことができました。

学校交流では、オーストラリアの同年代の学生と互いのことばと文化を学びあうことで、異文化理解はもちろん、自文化についても改めて振り返る絶好の機会となったようです。松原市を紹介するプレゼンを準備しながらある学生が「松原って何もないと思ってたけど、意外とそうでもなかった」と呟いたのがとても印象的でした。

多様な文化やルーツを持つ人々が共生するオーストラリアでの経験は学生達の知的好奇心を刺激したようで、「いつかまたメルボルンに留学したい」「外国と関わる仕事に就きたい」など、学生達は銘々に松原から海外に飛び立つ夢をふくらませていました。

また、「これからも松原市で国際交流事業を展開することがあればぜひ参加したい」との声が学生達から上がり、「今後の事業展開につながる人材づくり」という目標がある一定達成できたことは、今回の最大の成果と言えるでしょう。

なお、この交流事業の実施にあたっては、ムーニーバレー市をはじめ、エッセンドン・キーロー・カレッジ、ヴィクトリア州教育省、松原市内の各高等学校など、様々な機関に多大なるご協力をいただきました。

今後も松原市の将来を担う国際感覚豊かな市民の育成に向け、国際交流事業を展開していきたいと考えています。

